

押さふとて一港の極とて一にして跡
う堀くたつう味方かゝる一とて其目
年八と始りて於そ人より其り城会ホ
是をふくくつと討んと鉄砲をふくけく
うちうけり友因う路こ進とるんてお者
ら一とあり水と飛入く打とて進ハ堀水
涌ゆけり是わくくよのこりも堀中の
ハエもにつくく狂隊の所を城兵来れと
りか一こ一と矢疾と飛して打とて一ハ
も負死人とあり多くも来りてれも幸ふ

ことともせんうとて一りのとてふと終り
ても負傷とありと味方と即人々も小ちく
押さふやつあや堀表へいりくといり
け新登田の町堀の中板の堀とて柵の本の
ゆくやとて中板不板とあり上りて以て
至一うと下の透るりうとて其の所より
又中板の堀ゆれとて其の所より防ま一
城兵上りてお路よ友因能を馬一とて小
とて着しかり歎ふけくふとせまし
かは野所よりお路よ其間ふ伊右衛門